



④大勢の参加者が集まった内子東自治センター研究大会
⑤内子自治センター研究大会で講演する緒方英雄さん

これからの自治会活動を考える 自治センター研究大会

元気で心豊かな地域づくりを目指して、これからの自治会活動を考える研究大会が12月、内子自治センターと内子東自治センターでそれぞれ開かれました。

4日に開かれた内子東自治センター研究大会には、地域住人など約150人が参加。各自治会の活動発表の後、石鎚ふれあいの里代表の山本貴仁さんが講演を行い、「地元を自然を知り、暮らしに生かす取り組み」について話しました。

12日に開かれた内子自治センター研究大会では、「梅栗植えてハワイへ行こう」のまちづくりで有名な大分県日田市大山町の元職員・緒方英雄さんが講演。現在、株式会社「おおよま夢工房」の取締役総支配人を務める緒方さんは、自治会活動を進める上で大切な視点や戦略、リーダーに求められる資質などを語りました。

どちらの会場でも、参加者たちは、自分たちの自治会活動の参考にしようと熱心に耳を傾けていました。



最後の舞台上に思いを込め、精一杯の演技を披露

有終の美を飾る華麗な舞台 小田児童舞踊教室発表会

「第21回小田児童舞踊教室発表会」(同父母の会主催)が12月19日、文化交流センターサバルで開かれました。同教室は、感性豊かで健やかな子どもたちの育成を目的として42年前に開設。多くの卒業生を輩出し、地域文化の向上にも大きな役割を果たしてきましたが、少子化や指導の後継者などの問題により今回の発表会をもって活動を休止することとなりました。影野恵さんの指導の下で練習を重ねてきた23人の研究生たちの華麗な演技に、会場からは惜しめない拍手が送られていました。



内子町の環境のために使って

小田高校生徒会・家庭クラブが文化祭の収益を寄付

県立小田高校生徒会および家庭クラブは、文化祭の収益を町の環境政策に役立ててもらおうと、昨年度からバザーなどの売り上げの半分を内子町環境基金へ寄付しています。今年度も12月20日、本田健人生徒会長が町長室を訪れ、稲本隆壽内子町長に寄付金(13,149円)を手渡しました。稲本町長は「生徒の皆さんの思いが詰まったお金。大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。なお、残りの半分の収益は、内子町社会福祉協議会へ寄付されました。

みんなで美しい小田川を守ろう 大きな榎の木の下で

美しい小田川とその象徴である榎の木を将来へ守り伝えようと12月4日、豊秋河原で、「第19回大きな榎の木の下で」(同実行委員会主催)が行われました。親子連れなど約70人が参加し、ごみ拾いなどの河川美化活動を行いました。活動後は、手作りケーキを味わい、紙芝居や合唱などのレクリエーションなどで楽しみました。

榎の木を背景に上演された青空紙芝居▶



活気ある商店街づくりのために 未来志向型商店街研修セミナー

「未来志向型商店街研修セミナー」(㈱全国商店街支援センター主催)が12月8日、内子自治センターで開かれました。地元農家の野菜を商店街の飲食店が総菜に加工して販売する、全国的にも珍しい「内子半量市806」(池田洋助代表)の取り組み事例をもとに、具体的な活性化の方策について議論が交わされました。

新たな発想を求め、活発に意見を交換▶



食を通じて地域を元気に 長田・食の文化祭

長田自治会は12月11日、地域の活性化と食文化の伝承を目的として、「第5回長田・食の文化祭」を開きました。町内外から約200人が訪れました。太田利栄自治会長は、「バザー形式で開くようになって3年目になる。年々来場者も増えて、地域もだいぶ活気が出てきた」と手応えを感じている様子でした。

うどんやピザなどのバザーの他、多様な農産物や加工品が並ぶ▶



災害時の通信手段を確保

重松自治会・平岡自治会 合同防災訓練

重松自治会(西永善矩会長)と平岡自治会(沼井勝弘会長)は12月19日、大災害の発生で電話などが通じなくなった場合を想定し、無線と衛星ブロードバンドを使って外部に連絡する模擬訓練を行いました。同訓練は普段パソコンを使用しない人でも使える専用のソフトを用いて行われ、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

ソフト開発者の大森陸雄さんが中心となり、使い方を説明▶

